

## 行政のクリーン化

- ・官製談合事案検証のための第三者委員会設置
- ・町監査委員選任について、識者の経歴の範囲拡大
- ・業者を指名する指名会議に町長不参加
- ・ふるさと春・夏・秋・冬まつりの会長職を改正

本日ここに、令和3年第2回市川三郷町議会臨時会の開会にあたり、私の所信の一端を申し述べさせていただく機会をいただき、議長ならびに議員各位のご理解に感謝申し上げますとともに、町民の皆さまのご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

私は、この度、市川三郷町長選挙におきまして無投票当選を果たし町政の舵取りを担わせていただくこととなりました。

平成15年4月に市川大門町議会に当選させていただくことができ、合併後、市川三郷町議会議員として10年余、のちに、山梨県議会議員として8年務めさせていただき「地域の振興と県政発展」のため取り組んでまいりました。

市川三郷町長として、町政運営にあたらせていただくことに対し、改めて、その責任の重さを実感しているところです。

私は、町長に立候補させていただくにあたり、市川三郷町にお住いの皆さま方が、地域を愛し、地域を誇り、そして地域に暮らす意義を実感できる住民本位の社会として「住み心地の良い町」日本一を目指すことを公約として掲げました。私たちが住み慣れた市川三郷町には、町民の皆さまが心豊かに暮らすことの出来る多くの資質があります。この資質を磨き、活用するために、これからの町政運営で特に重要な視点や方向性についてお示し申し上げます。

まず、基本となる姿勢であります。

新しい発想、客観性などを求めるために外部目線、外部人材の活用を積極的に推進していきたいと存じます。その上で、DX（デジタルトランスフォーメーション）、AI（人工知能）などを活用した積極的な事務の効率化を進め機構改革を進めてまいります。

財政健全化については、直近4年度の実質単年度収支が赤字などという財政上極めて厳しい状況に鑑み、個別支援型から公共支援型へ改善してまいります。特に、投資効果が薄い事業に関しましては、改善をしてまいります。

新しい地域経営についてであります。

市川三郷町に限らず小規模な自治体は、自主財源に乏しく、その多くの自治体の財政は厳しい状況にあります。先に申し述べた機構改革を推進し、経営的視点を取り入れることにより、効率的で公平な行財政の運営を行います。地域経営の担い手である町民の皆さまの活動を支援するとともに収益性を高め、その利益を町民の皆さまに還元できるよう取り組んでまいります。

行政のクリーン化についても同様です。私たちは、罪を暴くのではなく、逮捕者を出してしまった行政システムの盲点、隙間を見つけ出さなければなりません。

今般の官製談合等事案は、客観性が求められ且つ法的、社会的、道義的に高い見地からの知見が必要となります。また、今後の新しい市川三郷町を構築していくための知的財産ともなりえます。県内の関係団体にご協力を願い今般の事案に関する再発防止のための具体的方策等を検証し、町民の皆さまから寄せられる信頼を回復できるよう対策を講じて行きたいと存じます。今般の事案検証のための第三者委員会設置に関して、本臨時会に提出いたしました。

市川三郷町監査委員選任の案件についても同様な考え方から選任したいと存じます。

今まで、町監査委員として町行政推進にご尽力いただきました識者各位には深甚なる敬意と感謝申し上げます。今後、識者の経歴の範囲を拡大し幅広い見識の識者をお願いしてまいります。さらに、町議会議員のうちから選任させていただいていた議員選任監査委員を廃し、議会と監査委員の役割分担を明確にし、町監査委員を改変したいと考え本臨時会に同意案件として提出いたしました。

指名会議への町長参加についてであります。

富士川町の官製談合事案から指名会議への町長参加が直接的な対策とはならない事は承知しますが、決裁権のある町長が町長決裁を求める立場の指名会議に参加することは、利益相反を起こす可能性があります。厳しく公平性を求められている指名会議に町長が参加することは、業者選定に恣意的政治力が介入する温床になりうると判断し、第三者委員会の意見を待たず、自らそれに係る要綱を改正いたします。

同様事例が、ふるさと春、夏、秋、冬まつりにも言えますので速やかに改正したいと存じます。

なお、官製談合等事案につきましては捜査中の事案でありますのでこの事に関する発言は差し控えます。

教育・子育てについてであります。

かつて、武田信玄公は「人は石垣、人は城」と言いました。「まちづくりは人づくり」とも言います。市川三郷町発展の根本は、人材育成にあります。地域を愛し、地域を誇り、そして地域に暮らす意義を実感していただかなければなりません。地域愛を醸成するための“地域学”を推進してまいります。

また、急速に進展する国際化の波は、地方、都市の隔てなく、地理的格差なく押し寄せて来ています。他方、インターネットの普及も急速で瞬時に国際社会との交流が可能な時代となりました。日常英会話を中心とする“しゃべれる英語教育”とICT（情報通信技術）を活用する先進的取り組みとして推進していきたいと存じます。

県が進める25人学級は、少人数学級に取り組んでいた本町にとって模範事例を示せる好機でもあり、一人ひとりの顔が見えるきめ細やかな教育を推進している市川三郷町の特色ある教育として継承して行きます。

市川三郷町第二次総合計画の重点プロジェクトとして掲げられている“いちかわみさと学び舎づくり”として、青洲高校との連携を密にして、教育委員会とともに取り組みたいと存じます。

医療・介護についてであります。

身近な医療の充実は、安心して生活していただくために必要です。他方、高齢化の進展に伴い介護サービスの充実も欠くことができません。峡南医療センターを核とする医療提供体制の整備と多面的な介護サービスの構築ができるよう施策・推進してまいります。

特に、必要な人材の確保育成に資する取り組みを支援するとともに施設等の運営に関しても支援体制を構築してまいります。

経済・産業についてであります。

中部横断道、南部区間（山梨～静岡）の開通は、本町のみならず峡南地域にとっても大きな期待があります。六郷インターチェンジは無料区間と有料区間の結節点で、今後、ますますの利用車両の増加が見込めることを考えると、通過する車に立ち止まってもらうための仕掛けが必要です。

本町の豊かな資質を関係機関と連携して、さらに、ブラッシュアップして地域経済の繁栄に向け取り組みます。和紙、はんこ、花火など本町発展に貢献してきた伝統産業及び農業については、尊重し、様々な機会を通してPRできるように、トップセールスという形で広く社会に情報発信してまいります。

交通・インフラについてであります。

通学路の整備、歩行者の安全対策に努め「住み心地の良い町」日本一実現の基盤となる道路の拡幅、歩道・通学路の整備を推進してまいります。

一方、人の交流や物流が促進でき本町に利益がもたらされる道路の整備には積極的に取り組んでいき、町政発展のための基盤としたいと考えます。

防災・安全についてであります。

防災・減災、国土強靱化対策は「住み心地の良い町」日本一を実現するためにも重要です。豪雨災害を未然に防止するための河川等整備、浸水被害を未然に防止するための整備に取り組みます。安全で安心な「住み心地の良い町」にするため、交番や派出所の在り方と共に取り組んでまいります。

住まい方についてであります。

「住み心地の良い町」日本一を実現するためには、愛着の持てる地域であること、快適な生活環境が整っていること、若年人口の増加により活気にあふれていることなどが重要とされています。それに加え、安らぎ、憩い、安心など心身が休まる環境づくりや、住まうことでワクワクする受け皿が必要です。

伝統産業が地域外から富を稼いできた時代からサラリーマン化が進み心身ともに休まる地域づくりが求められる時代へと変わりました。

Fc - Cubic 進出による米倉山開発、山梨大学附属病院増床計画、リニア新幹線甲府駅(仮称)開業など、周辺の住宅需要を的確に捉え、真の「住み心地の良い町」を目指し施策・推進に取り組んでまいります。

併せて、SDG s 未来都市の登録に向けても取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症対策についてであります。

目下、3回目のワクチン接種に向け取り組んでいます。しかしながら感染拡大抑止には、引き続き、ご理解賜り実践いただきますようお願い申し上げます。

令和2年4月に閣議決定された「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」については、本町では、第一次・第二次交付金額4億2千232万7千円のうち、主な事業として町民、商店、企業支援を目的に「コロナに負けない心の絆商品券」を2度実施し、子ども子育て支援事業、中学校給食無償化事業など16事業実施いたしました。

令和3年度分事業として、交付予定額1億7千573万3千円のうち新型コロナ感染症収束後の経済政策の対応として、町民、商店、企業を支援するため「100%プレミアム商品券事業」を実施し、キャッシュレス化推進事業を予定しています。

新型コロナウイルス感染症による経済損失を挽回すべく事業を講じていきたいと存じます。

以上、公約として掲げた施策の考え方等について申し上げます。

これらの、施策の具体的な内容と進め方については、先に申した通り十分に検討を行い、当初予算等に反映させ今後の議会において議案として提出申し上げたいと存じます。ご理解賜るようお願い申し上げます。

他方、これまで、市川三郷町第二次総合計画で掲げている将来像「自然・歴史・文化などを活かした『にぎわい』づくり～伝統と安心をつなげて～」をさらに充実強化するとともに、新たな視点を加え「住み心地の良い町」日本一を目指し誠心誠意努力してまいります。

私は、常に身を正し、町民の皆さまの声を聴き、各界各層のご意見をいただく中で、尽くしていきたいと考えます。町議会の議員各位、町民の皆さまのご理解を賜りたくお願い申し上げ、私の所信といたします。

令和3年11月22日

市川三郷町長 遠藤 浩